

主題：聖書の心臓部——ガラテヤ、エペソ、ピリピ、コロサイ

メッセージ 11

ピリピ人への手紙（3）

キリストはわたしたちの美德、神の平安、わたしたちの秘訣、
わたしたちを力づけてくださる方である

聖書：ピリピ 4:5-9

- I. ピリピ第4章5節から9節におけるわたしたちの経験のためのキリストのさまざまな美德は、キリストを生きる生活の表現です——ピリピ1:19-21前半、2:5-13、3:8-10：
- A. パウロは謙虚溫柔さと思い煩わないことを、キリストを生きる生活の表現の最初の二つの面であると考えました。
- B. 思い煩いはサタンから来るもので、人の生活の総合計であり、信者たちのキリストを生きる生活を妨げます。謙虚溫柔さは神から来るもので、キリストを生きる生活の総合計であり、この二つは相反します——マタイ 6:22-34。
- II. 「あなたがたの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせなさい。主は近いのです」——ピリピ4:5：
- A. クリスチャンの経験によれば、謙虚溫柔さはすべてを含みます。それはすべてのクリスチャンの美德を含みます。謙虚溫柔さは実は、満ちあふれる供給を伴うすべてを含む霊としてのすべてを含むキリストです——ピリピ 1:19-21 前半：
1. 謙虚溫柔さは理にかなっていること、思いやり、人を取り扱うことで考慮することであり、法的な権利の要求において厳格ではないことです。謙虚溫柔さが意味するのは、わたしたちが容易に満足すること、しかもわたしたちの当然与えられるものより少なくとも容易に満足することです。
- a. 謙虚溫柔さは、愛、忍耐、親切さ、へりくだり、いつくしみ、思慮深さ、服従、進んで従うことを含みます。わたしたちがこのようなすべてを含む美德を持つなら、わたしたちは義と聖も持ちます。
- b. 謙虚溫柔さは、自制、適度であること、優しさ、思いやり、同情、知恵、あわれみ、平安であること、主を仰ぎ望むこと、すべての事において主が主権者であることを認める美德さえも含みます——参照、II コリント 12:7-9。
2. 謙虚溫柔な人はいつも適合する人であり、彼の振る舞いはいつも適切です——参照、II コリント 6:1 前半、10:1、ピリピ 1:19、イザヤ 11:2。
- a. わたしたちが謙虚溫柔であるなら、他の人を必要なものをもって供給する知恵と能力を持つでしょう。わたしたちはまた彼らに対して何を、いつ言うのかについての満ち満ちた知識を持つでしょう——イザヤ 50:4-5、コロサイ 1:28、箴言 25:15。
- b. 謙虚溫柔であるとは、わたしたちが行なうことや、言うことによって、他の人たちがどのように影響されるかを考慮することです——歴下 1:10。
- B. 謙虚溫柔さは、すべてを含む美德として、キリストご自身です。キリストは謙虚溫柔さなので、パウロにとって生きることは謙虚溫柔であることでした——ピリピ 1:21 前半。

1. わたしたちの謙虚溫柔さをすべての人に知らせることは、わたしたちが生き、大きく表現し、またわたしたちが模範とし、目標として追い求めるキリストをすべての人に知らせることです。
2. 主イエスが謙虚溫柔さに満ちた生活を生きました。そして今日、キリストだけがわたしたちの完全な謙虚溫柔さとなることができます。
3. わたしたちの謙虚溫柔さを知らせることは、人のすべての美德の総合計としてのキリストを表現する生活を生きることです。

C. パウロは、謙虚溫柔さについて語った後直ちに、主は近いのですと言いました。

1. 空間的には、主はわたしたちに近く、すぐにも助けてくださいます。時間的には、主は近く、間もなく来られます——参照、ローマ 10:8-13。
2. 主が近いことはおもに彼の臨在がわたしたちと共にあることを言っています——マタイ 1:23. 出 33:14。

III. 「何事にも思い煩うことなく、あらゆることにおいて、感謝をささげることを伴う祈りと願ひ求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい。そうすれば、人知をはるかに超えた神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛して下さいます」——ピリピ4:6-7 :

- A. キリストご自身が神の平安であり、その平安は人知をはるかに超えたものです——イザヤ 9:6. ヨハネ 14:27. ルカ 7:50. ローマ 3:17. 5:1. 8:6. 15:13. 16:20。
- B. 「あらゆることにおいて」という言葉は、わたしたちに日々起こるさまざまなことを指しています。
- C. 祈りは一般的なものであり、それは礼拝と交わりを要素として含んでいます。願ひは特別なものであり、特定の必要のためです。わたしたちの祈りと願ひには、主に感謝をささげることが伴うべきです。
- D. 「神に」は、ある方向の動作を示し、生ける結合と交流の意味であり、交わりを暗示しています。ですから、「神に」の意味は、「神との交わりの中で」ということです。
- E. 祈りの中で神と交わりを実行した結果は、神の平安を享受することです。神の平安は實際上、平安としての神であり（9 節）、わたしたちが祈りによって彼と交わることを通して、わたしたちの中へと注入されて、苦悩に抵抗し、思い煩いを解毒します（ヨハネ 16:33）。
- F. 平安の神は、キリストにあるわたしたちの心と思考の前を巡回して、わたしたちを落ち着かせ、鎮めてくださいます——参照、イザヤ 30:15 前半。
- G. わたしたちが思い煩いのない生活を送りたいなら、自分のすべての状況は良くても悪くても、神がわたしたちに割り当ててくださったものであり、わたしたちがキリストを得て、キリストを生き、キリストを大きく表現するというわたしたちの運命を成就するのに役に立つことを認識する必要があります——ローマ 8:28-30. マタイ 10:29-31. II コリント 4:15-18。

IV. 「最後に、兄弟たちよ、何であれ真実なこと、何であれ誉れあること、何であれ義なること、何であれ純粋なこと、何であれ愛らしいこと、何であれ好評なこと、またもし何らかの徳があり、何らかの称賛があるなら、これらのことを考慮しなさい」——ピリピ4:8 :

- A. これらの美德は、神の具体化であるキリストを追い求める者たちの内側から生かし出された神の属性の表現です。
- B. これらの美德は、キリストを生きる生活の六つの支配する面です：
1. キリストを生きる生活は真実なものです。すなわち、倫理的に真実であり、何の装いも偽りもないものです。
 2. キリストを生きる生活は、誉れがあるものです。すなわち、立派で、高貴で、謹厳で、堅固で、重みがあり、尊敬に値するものです——I テモテ 3:8, 11. テトス 2:2. 参照、ローマ 9:21。
 3. キリストを生きる生活は、義なるものです。すなわち、神と人の前で義しいものです——ピリピ 3:9。
 4. キリストを生きる生活は純粋なものです。すなわち、意図と行動において単一で、何の混じり気もないものです——マタイ 5:8。
 5. キリストを生きる生活は、愛らしいものです。すなわち、愛すべきものであり、同意できるものであり、愛情を抱かせるものです。
 6. キリストを生きる生活は、好評なものです。すなわち、名声のある、魅力のある、人の心を捕らえる、上品なものです——ホセア 14:7。
- C. 徳と称賛は、前の六項目の総和であり、その六項目すべての中に、いくらかの徳や卓越したもの、また称賛に値するものがあります——16 節。
- D. 正常な人になることは、わたしたちの人の美德の中にある神の神聖な属性を通して神を表現することです。すなわち、神の属性の実際であるキリストで満たされた人生を送ることです——参照、創 1:26。
- V. 「わたしはどんな境遇でも、満ち足りることを学んだからです。わたしは卑しくなる道を知り、また豊かになる道も知っています。あらゆる事において、またいっさいの事柄において、わたしは飽くことにも飢えることにも、豊かであることにも乏しくあることにも、秘訣を学びました。わたしは、わたしを力づけてくださる方の中で、いっさいの事柄を行なうことができるのです」——ピリピ4:11後半-13：
- A. パウロはキリストを経験する秘訣としてキリストを取り、あらゆる境遇で、どんな状況でも、どんな事柄においても、キリストのゆえに満ち足り、喜んでいました——4 節。
- B. 「わたしは秘訣を学びました」は、文字どおりには「わたしは入門しました」を意味します。この比喻は、人が秘密結社に入門して、その基本原則の指導を受けることを言います——コロサイ 2:2. エペソ 3:3-4. 5:32：
1. パウロがキリストに回心した後、彼はキリストの中へと入門し、キリストのからだの中へと入門しました——使徒 9:3-19, 25-28. 22:6-21. 13:1-4。
 2. パウロはどのようにキリストを命とし(コロサイ 3:4)、どのようにキリストを生き(ピリピ 1:21 前半)、どのようにキリストを大きく表現し(20 節)、どのようにキリストを獲得し(3:8, 12)、どのように召会生活を持つかについての秘訣を学びました(1:8, 19. 2:1-4, 19-20. 4:1-3)。
- C. ピリピ第 4 章の秘訣は、わたしたちを力づけてくださる方であるキリストの中でいっさいの事を行なうことです——13 節. 英文詩歌 564 番：

1. パウロはキリストの中にある人として、すべての境遇においてキリストを経験し、キリストを適用しました：
 - a. パウロはキリストを適用し、そのキリストの中で見いだされることができました—— 3:9。
 - b. このキリストは実際の、生ける、近く、便利で、優勢な方です—— 4:5 後半、詩歌 400 番。
2. 力づける方としてのキリストについてのパウロの言葉は、特にキリストがわたしたちを力づけて、あらゆる種類の境遇で、わたしたちがわたしたちの人のさまざまな美德としてのキリストを生きて、それによってキリストの無限の大きさを大きく表現することに適用されます——ピリピ 4:8-13：
 - a. キリストによって力づけられることによって、わたしたちは満ち足りた生活を送ることができ、真実な者、誉れある者、義なる者、純粋な者、愛らしい者、好評な者になることができます—— 11-12, 8 節。
 - b. これらの美德の生活を送ることは、クリスチャンの働きを行なうことよりもはるかに困難です。
3. わたしたちがキリストを力づける方として経験しようとするなら、わたしたちは以下の事柄においてキリストと協力する必要があります：
 - a. わたしたちは主が十字架上で流された血に基づいて、罪の徹底的で新鮮な赦しを経験する必要があります——ヘブル 9:14, 10:19, 22, 出 24:8, マタイ 26:28。
 - b. わたしたちはキリストの復活を通して、この世から引き離され、分離され、乳離れする必要があります。そうすれば、わたしたちは自分の中へと信じた方が、復活したキリストであり、このキリストは命を与える、油塗る霊であることを認識します—— I ヨハネ 2:15-16, 20。
 - c. わたしたちは昇天が何であるかを知り、自分が受けた命が天的な命であることを知る必要があります。わたしたちは主と共に天上へと昇天し、こうして今や天的な人であるという事実気づくべきです。外面的に、わたしたちは依然として地上に生きていますが、わたしたちの内なる命と雰囲気に関しては、天上に生きています——エペソ 2:6, ヘブル 8:2, 4:14-15, 7:25-26。
 - d. わたしたちは地上での実際生活において、神の御前に来ることによって、神の中へと入ることによって、そして神の御顔の光の中で生きることによって、絶えず祈っている人でなければなりません——詩 42:5, 11, 80:1, 3, 7, 19。